

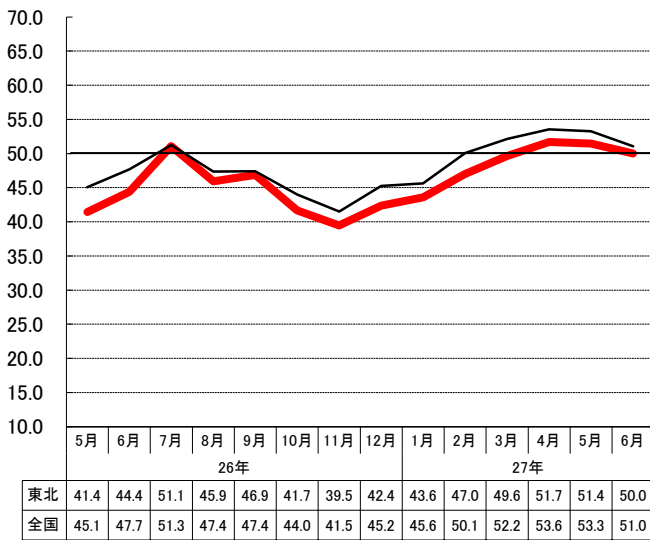
公益財団法人東北活性化研究センター
 「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成27年6月東北分
 (新潟を含む東北7県)」について

公益財団法人東北活性化研究センター（会長：海輪 誠・東北電力(株)取締役会長）は、このほど、「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成27年6月東北分（新潟を含む東北7県）」について、とりまとめましたのでお知らせいたします。

1. 現状判断（3か月前との比較、方向性）

現状判断 DI「50.0」（▲1.4）は、2か月連続で前月を下回ったものの、3か月連続で景気判断の基準となる50以上となった。

現状判断DIの推移



— 東北 — 全国

・家計動向…コンビニ、スーパー、乗用車販売店等、小売関連にDIの低下した業種が多い。一方、サービス関連ではDIが改善している。DIは「48.6」（▲4.4）と7か月ぶりに前月を下回り、基準値50を3か月ぶりに下回った。

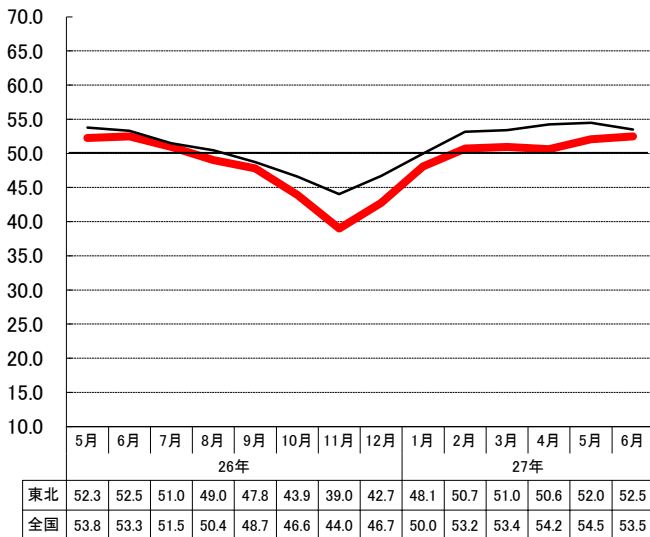
・企業動向…製造業、建設業を除く非製造業のすべての業種で、DIが前月から横ばい、もしくは改善している。DIは「55.4」（+9.0）と2か月ぶりに前月を上回り、基準値50を2か月ぶりに上回った。

・雇用動向…DIは「48.9」（▲2.2）と2か月ぶりに前月を下回り、基準値50を4か月ぶりに下回った。

2. 先行き判断（2～3か月先の見通し、方向性）

先行き判断 DI「52.5」（+0.5）は、2か月連続で前月を上回り、景気判断の基準となる50を5か月連続で上回った。

先行き判断DIの推移



— 東北 — 全国

・家計動向…小売関連のコンビニ、乗用車販売店等で、DIが低下している。一方、飲食関連の高級レストラン等では改善が見込まれている。DIは「51.0」（▲1.8）と2か月ぶりに前月を下回ったものの、基準値50を5か月連続で上回った。

・企業動向…製造業、非製造業、共にDIが改善しているが、非製造業中、一部の業種では低下がみられる。DIは「56.5」（+6.5）と2か月ぶりに前月を上回り、3か月連続で基準値50以上となった。

・雇用動向…DIは「54.5」（+3.4）と、2か月連続で前月を上回り、基準値50を2か月連続で上回った。

<参 考>

■DIの推移※

(1) 現状判断(方向性)DI

	26年								27年					
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
東北現状	41.4	44.4	51.1	45.9	46.9	41.7	39.5	42.4	43.6	47.0	49.6	51.7	51.4	50.0
家計動向関連	37.8	43.5	49.8	44.8	46.2	40.2	38.6	41.3	42.5	46.0	49.1	51.6	53.0	48.6
企業動向関連	44.0	42.9	52.4	47.0	50.0	44.0	40.5	44.6	44.6	50.0	50.6	53.0	46.4	55.4
雇用関連(参考)	60.2	53.4	56.8	51.1	45.5	46.6	43.2	45.5	48.9	47.7	51.1	50.0	51.1	48.9

(2) 先行き判断DI

	26年								27年					
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
東北先行き	52.3	52.5	51.0	49.0	47.8	43.9	39.0	42.7	48.1	50.7	51.0	50.6	52.0	52.5
家計動向関連	51.7	52.4	50.3	49.7	47.9	43.5	38.1	41.8	47.3	51.0	51.2	50.7	52.8	51.0
企業動向関連	52.4	53.0	52.4	46.4	51.2	45.2	40.5	44.6	51.8	50.0	49.4	51.2	50.0	56.5
雇用関連(参考)	55.7	52.3	52.3	50.0	40.9	44.3	42.0	45.5	46.6	50.0	52.3	48.9	51.1	54.5

※DI (Diffusion Index) について…50 を基準とし、50 を超えると景気が良い方向にあることを示す。

■調査の概要

調査期間 平成27年6月25日～30日

回答者数 210/210名、回答率100.0%(全国1,856/2,050名、90.5%)

以上

<お問い合わせ先>

公益財団法人 東北活性化研究センター (担当: 菅場 喜樹)

〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-10

TEL: 022-225-1426 FAX: 022-225-0082

<別 紙>

■特徴的と思われる判断理由（ウォッチャーのコメントから抜粋）

（1）現状判断理由

○「やや良くなっている」

（都市型ホテル）…今年度に入り、来客数の前年比は順調に推移している。消費単価は例年並みであるものの、来客数の増加に伴い販売量も増加しており、結果的に大きく売上を伸ばしている。

（食料品製造業）…物販、レストラン共に前年同月の売上を上回っている。特にレストランの売上が好調である。

（輸送用機械器具製造業）…自動車関連の設備投資が活発化しており、セット品の受注などの恩恵を受けている。

（飲食品卸売業）…首都圏向けの清酒の出荷量が回復しており、ようやく3か月ぶりに全体出荷量の前年比がプラスとなっている。しかし、地元向け、中でも飲食店向けの出荷は不調に終わっている。

（企画業）…住宅建築の商談が増加傾向にある。また、取引先ではボーナスの支給率を前年よりも上げる会社が多いようである。

○「変わらない」

（商店街）…晴天に恵まれていることや催事の効果により来客数は健闘している。しかし夕方～夜にかけて客足が引けるのが早く、物販店では売上の増加にはなっていない。また、飲食店では来客数は増加しているが、客単価の低下が続いている。

（百貨店）…4月以降は相応の売上を確保していたが、今月に入り婦人服を中心に売上は低迷しており動向が安定していない。また、客単価は維持しているものの、来客数の減少が売上低迷の主な要因となっており、客の慎重な買い方に変化がみられていない。

（スーパー）…6月の平均単価は、前月同様に前年比5%増加で推移しているが、買上点数は前年割れが続いている。しかし、来客数は前年並みであるので、全体としてはやや持ち直している感がある。ただし、売上の前年比推移は地域格差と売場規模での格差があるため、全体としての景気の傾向に変化は無いように見受けられる。

（衣料品専門店）…6月はボーナスが支給されているが、販売量、来店客数共に変化は無い。この1年半は景気の回復が実感できない状況である。

（一般レストラン）…周囲の飲食店からは、ゴールデンウィーク以降は客足が遠のいているという話を聞いている。一部にはまずまずといった店もあるようだが、全体的に飲食店は足踏み状態である。

（旅行代理店）…売上はほぼ前年並みで推移しており、大きな変化は無い。

（通信会社）…客からはコスト削減の話ばかりであり、建設業以外からは良い話は聞こえてこない。

（遊園地）…前年と比較して日曜日が1日少ないが、梅雨入りが遅かった分天候に恵まれており、来客数は前年をわずかに上回っている。

（設計事務所）…検査や調査など、設計や監理以外の仕事では忙しいが、それを除けば仕事量は確実に減少している。

（住宅販売会社）…住み替えをする顧客が多い住宅物件は受注の動きが緩慢であり時間がかかっている。しかし、一般物件は受注が好調であり、全体的には良い状況である。

（リフォーム業）…住宅エコポイントの効果で、主に複合ガラスのリフォームなどの問い合わせ件数が増加している。

（農林水産業）…さくらんぼ観光果樹園では、来客数が例年より1～2割ほど多く、まずまずの状況であったと聞いている。

（出版・印刷・同関連産業）…プレミアム付商品券の印刷で受注量は前年より伸びているが、それがなければ大幅に減少していた可能性がある。

(建設業) …技術者及び労務者不足から消化体制が限界となっている。コスト的に厳しい案件には取り組めないため、比較的適正な価格での受注が続いている。

(人材派遣会社) …派遣登録者が減少しており、求人とのミスマッチが続いている。

(職業安定所) …卸小売業以外のほとんどの業種で、新規求人数の前年同月比が減少しており、正社員の占める割合も30%を下回っている。また、有効求人数は6か月連続で減少しているものの、有効求人倍率は引き続き1.2倍台で推移している。

○「やや悪くなっている」

(医薬品販売店) …広告の効果により新規の客が来店して、平年並みの売上を維持している。しかし、従来の客が来店しなくなったり、来店頻度が落ち込んだりなど、震災前の景気の悪さを思い起こさせるような店頭事例も多くなっている。また、従来から価格を維持している商品を「高い」と言われることもあり、客の財布のひもが固い印象である。

(コンビニ) …客の購買意欲は低単価商品への比率が高くなっており、ここにきて再びデフレの傾向がみられている。

(乗用車販売店) …直近の販売量は前年比60%と3か月前と比較しても落ち幅が大きい。また、商談数自体も少なく、購買意欲の低下が著しい状態である。

(住関連専門店) …円安により仕入価格が大幅に上昇している。今頃になって値上げをしてくる業者が大変多く、様々な小物商品の価格が上昇しており、販売に支障をきたしている。

(ガソリンスタンド) …これまでも前年割れの状況で推移していた販売量が、今月に入って更に減少幅が大きくなっている。

(高級レストラン) …来客数は各店舗共に伸び悩んでいる。前月が良かった分、今月は控えられた印象である。

(新聞社[求人広告]) …本社が京阪地域にある企業の、地方にある支店対応の求人オファーが激減している。地方創生の掛け声は良いが、こと求人に関する限りは、中央との格差がますます広がっているように見受けられる。

(2) 先行き判断理由

○「やや良くなる」

(住関連専門店) …客の様子からは、消費税増税に大分慣れた感がある。消費税を反映させた販売価格にも驚かなくなってきたおり、少しは販売量が増えるのではないかと見込んでいる。

(高級レストラン) …賞与などで個人消費喚起が図られるのではないかと見込んでいる。また、夏祭りが盛んになる時期であり、観光客などが見込めるため期待している。

(観光型旅館) …7月から本格的にプレミアム付宿泊券が使用されるため、多少なりとも消費行動がプラスに転じるとみている。

(都市型ホテル) …大きなイベントは無いものの、比較的天候が安定していること、JRの会員キャンペーンが開始されることから、首都圏の客がようやく当県に目を向ける傾向が出てきている。

(司法書士) …住宅ローンが低金利で推移しており、今後の消費税率10%への引上げに向けて、前倒ししての住宅建築の受発注が見込まれている。

(飲食料品卸売業) …プレミアム付商品券の発売が好評である。地元観光ホテルや旅館での飲食及びお土産需要に期待している。

(職業安定所) …27年5月の月間有効求人数は依然として高水準で推移しており、有効求人倍率は1.3倍台と高い水準である。また、27年6月の有効求職者は減少して、前年同月以上に有効求人倍率が高くなるとみている。

○「変わらない」

(百貨店) …地方ではベースアップなどの恩恵がそう多くないことから、個人消費を回復させるだけの材料が見当たらない。ただし、ギフト商戦は例年と変わらない動きであり、必要なものを中心に消費するという流れは当面変わらないものとみている。

(家電量販店) …前年と比較して消費税増税の影響が薄れており、客の景況感が良くなりつつあると実感している。また、良くも悪くもなる材料も無いため、このままの流れがしばらく続くのではないかとみている。

(出版・印刷・同関連産業) …受注量は横ばいもしくは弱含みの状態であり、変化は無い。また、同業他社も同様に横ばい状態のようである。

(土石製品製造販売) …しばらくは大きな工事もなく、予算通りの工事のみのため、景気に左右されることは無いとみている。

(電気機械器具製造業) …今後2～3か月は現在の好調な状態を維持するとみている。

(建設業) …時期的に補正予算の動向が決定する前であり、大きな変化は無い。

(人材派遣会社) …人手不足から、売上拡大施策としての出店は厳しい状況である。取引顧客からは現状維持が精一杯だと聞いている。

(新聞社[求人広告]) …正規雇用の拡大がみえない状況であり、依然として求人広告の申込は低調である。

○「やや悪くなる」

(商店街) …零細企業商店主は先行きにいつも不安を抱いており、その状態は変わっていない。また、消費者も秋口にかけて本当に景気が良くなるのか不安であり、疑心暗鬼という状態なのではないか。

(コンビニ) …単価までが落ち込んでくると、物が売れない状況が続くことになる。このままでは経済は活気付かない。

(衣料品専門店) …ここひと月の客の様子からは、慎重に買物をする傾向が顕著にみられている。前年は残暑、猛暑で夏の需要が動いたが、今年は前年ほどにはならない見込みであり、厳しいのではないか。

(乗用車販売店) …ボーナスが出ている会社が結構あるが、一向に来客数が増えずに、売れているものも低価格のものばかりである。

(白衣・ユニフォーム専門店) …夏場の商品の売行き動向は毎年変化をしている。また、クールビズが大分浸透してきているが、その分ライバルも増えて価格競争に巻き込まれている。そのため、ますます低価格、低利益の状況が進むとみている。

(美容室) …数々の物価が上昇しても、給与や賞与が上がらないという客が多く、地方ではなかなか景気が回復していない状態である。

(コピーサービス業) …一部の仕入価格において値上げが予定されているが、販売価格に転嫁できるか不安である。

東北地域に関する解説は、当センターの責任でまとめたものです。

以 上